

# 自己評価報告書

2019年3月31日現在

東京・iスマートビジネス専門学校

2019年5月15日作成

# 目 次

1	学校の理念、教育目標 .....	1
2	本年度の重点目標と達成計画 .....	2
3	評価項目別取組状況 .....	3
4	本年度の重点目標達成についての自己評価 .....	8

# 1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>学校教育法に基づき、社会人として必要なビジネスに関する専門知識を教授し、外国人に対して日本語を教授することができる知識の習得と人間力を養うことで、グローバル化する我が国において外国人とコミュニケーションを取りながらビジネスができる人材を育成することを目的とする。</p>	<p>本校は礼儀、責任、融和を校訓とし、世界で活躍できるビジネスマンとしての育成、健全な人格形成を目指し、次の三項目を教育目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. ヒューマンスキルの獲得 ビジネスに欠かせないコミュニケーション力・交渉力の習得</li><li>2. テクニカルスキルの向上 常に向上心を持ち、世界情勢や環境の変化に柔軟に対応できる高い業務遂行能力の体得</li><li>3. コンセプチュアルスキルの育成 ビジネスリーダーとして活躍していくための俯瞰力・問題解決能力の育成</li></ol>

## 2 本年度の重点目標と達成計画

2018 年度重点目標	達成計画・取組方法
1. 入学定員確保  2. 学生満足度 100%  3. 資格取得率 100%  4. 進路決定率（卒業時）100%  5. 教育力・指導力の向上	1. 入学定員確保 ① 学校訪問・ガイダンス・学校説明会を強化する ② 認知度向上のため Web・SNS・紙媒体等による発信を強化する  2. 学生満足度 100% ① 半期ごとに満足度アンケートを実施する ② 3ヶ月に1回以上の面談を実施する ③ 職員会議にて学生状況の共有を行い、欠席者は適宜、面談する  3. 資格取得率 100% ① カリキュラムに資格対策を取り入れる ② 進路指導の一環として資格取得への意識づけを十分に行う  4. 進路決定率（卒業時）100% ① 就職先を開拓する ② 一年次から、自己分析や業界研究を促し、進路を具体的に考えられるようにする  5. 教育力・指導力の向上 ① 指導に有効な資格の取得や内外の研修などを通じて、積極的に研鑽に努める

### **3 評価項目別取組状況**

## 2018年度 自己評価評価項目

東京・iスマートビジネス専門学校

基準1 教育理念・目的・人材育成像		評価			
1	学校の理念目的育成人材像は定められているか。特性が明確になっているか。	④	3	2	1
2	学校における職業教育その他の教育指導の特色が打ち出せているか。	4	③	2	1
3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	③	2	1
4	学校の理念目的育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか。	4	③	2	1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	③	2	1

コメント:本校は平成30年4月に、グローバル化する我が国において、外国人とコミュニケーションを取りながらビジネスのできる人材を育成し、社会へ輩出することによって、社会へ貢献することを目的として開校した。カリキュラムの特徴は以下の3点である。まず、ビジネスパーソンとして即戦力となる語学能力を有し、相手のバックグラウンドを察しながら意思疎通する能力を習得するビジネスコミュニケーション科目群である。この科目群では語学の四技能を徹底的に身につける。次にビジネススキル科目群である。世界の中での日本企業の特徴と課題を基本的な知識として習得した上で、経済学・経営学の思考方法を身につけることを目的とする。また、問題・課題解決を担う即戦力型の人材育成も実施する。つまり、商業実務を学んだ者として、企業内で生じる様々な問題・課題に対し、自らの知識と経験を総動員して、リーダーシップを取りながら解決することのできる人材である。このような人材が、基本的なビジネスマナーを習得していることは言うまでもない。3点目として、PCスキル関連科目群である。ビジネスパーソンにとって、Microsoft Office関連ソフトウェアを使いこなすことは必須である。本校では習得するのは、PCスキル関連科目を通じ、「この結果は、なぜこうなるのか。どこから導かれたのか。」という論理的思考能力である。この科目群では「技術を使えることに満足せず、その技術をビジネスにどう生かすか」という絶え間ない探究心を醸成する。

今後の改善策:「職業教育機関としての専門学校」という教育目標を常に認識しながら教育を実践することが求められる。

基準2 学校運営		評価			
1	目的・理念に沿った運営方針が策定されているか。運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	③	2	1
2	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	④	3	2	1
3	人事、給与に関する規程等は整備されているか。	4	③	2	1
4	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか。	4	③	2	1
5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	④	3	2	1
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	④	3	2	1
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1

コメント:本学園では「学校法人小倉学園寄付行為」に基づき、理事会ならびに評議員会を開催し学園運営を行っている。事業計画は、評議員会に諮問後、理事会にて承認決定の上、運営方針を決定している。学園全体で共通の意思決定を行うことで、常に時代をリードする新しい取り組みをいち早く導入し、他校に負けない学校運営を実践している。

今後の改善策:学校単位での運営に関する詳細まで整備しなければならない。今後多様化する学生情報の管理体制も一層の強化が求められる。

基準3 教育活動		評価
(目標の設定等)		
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	④ 3 2 1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
(教育方法評価等)		
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	④ 3 2 1
4	キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	4 ③ 2 1
5	関連分野の企業関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか。	4 ③ 2 1
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技実習等)が体系的に位置づけられているか。	4 ③ 2 1
7	授業評価の実施評価体制はあるか。	④ 3 2 1
8	職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4 ③ 2 1
9	成績評価単位認定、進級卒業判定の基準は明確になっているか。	④ 3 2 1
(資格試験)		
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	④ 3 2 1
(教職員)		
11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4 ③ 2 1
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務兼務含め)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4 ③ 2 1
13	関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4 ③ 2 1
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか。	④ 3 2 1
(生徒指導等)		
15	基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか。	4 ③ 2 1
16	生徒の安全管理のための取組(災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある生徒等への支援など)が行われているか。	4 ③ 2 1
17	保護者との連携を取っているか。	④ 3 2 1
18	進学就職指導にかかる支援体制は組まれているか。	4 ③ 2 1
<p>コメント: 専修学校設置基準に則った教育課程の編成と授業時間の確保を前提としたカリキュラムに基づき教育活動を実施している。教育内容の評価については、各学期の終了時に学生アンケートを実施している。次年度は進路指導活動も始まるため、指導体制を整える必要がある。</p> <p>今後の改善策: 教職員の人員体制の補強、専修学校各種学校連合会主催の研修及びセミナー、その他研修会積極的な参加を行う。</p>		

<b>基準4 学修成果</b>		評価		
1 資格取得率の向上が図られているか。	4	③	2	1
2 退学率の低減が図られているか。	4	③	2	1
<p>コメント: 資格取得に向けたカリキュラムについては、習熟度別クラスを編成し、受験内容にあった教育を行って来た。資格取得に関する「モチベーション」においても、就職試験との連携を説明し学生の「モチベーション」の向上を行った。退学率に関しては想定をこえる退学率を出してしまった。</p> <p>今後の改善策: 金銭的な理由で退学をする学生が多く、入学前より学費納入、生活費に係る費用を説明しなければならない。入学後においてはクラス担任による個別面談、学生支援課による個別面談など学校全体の意思疎通をしなければならない。</p>				
<b>基準5 生徒支援</b>		評価		
1 生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか。	④	3	2	1
2 生徒の健康管理を担う組織体制はあるか。	④	3	2	1
3 生徒の生活環境への支援は行われているか。	④	3	2	1
4 保護者と適切に連携しているか。	4	③	2	1
5 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	③	2	1
6 受入れ、在籍管理等において適切な手続きがとられているか。	4	③	2	1
7 留学生の学習生活指導等について学内の適切な体制が整備されているか。	④	3	2	1
8 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	4	③	2	1
<p>コメント: 本校では、少人数制による授業の実施、学生一人に対し、クラス担任、学生支援者、学生募集担当者など複数人でサポートする体制を取っている。学生面談においては校長面談も行っている。留学生の在留期間更新においても専任の職員を配置し細かい指導を実施している。</p> <p>今後の改善策: 学生一人一人の問題は多様化し、担当者による面談では限界があると思われる。全教職員によるフォロー体制が求められる。</p>				
<b>基準6 教育環境</b>		評価		
1 施設設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	③	2	1
2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。	4	③	2	1
3 防災に対する体制は整備されているか。	④	3	2	1
<p>コメント: 専修学校設置基準に則った施設・設備を整えております。教育上、必要十分に対応できるよう整備しています。今後も計画的に更新をしていく。</p> <p>今後の改善策: 学生休憩場所の増加など教育以外の環境を整える必要がある。</p>				
<b>基準7 学生の受入れ募集</b>		評価		
1 高等学校など接続する機関に対する情報提供の取組が行われているか。	④	3	2	1
2 学生募集活動は、適正に行われているか。	④	3	2	1
3 学生募集活動において、資格取得進学又は就職状況の情報は正確に伝えられているか。	④	3	2	1
4 学生納付金は妥当なものとなっているか。	④	3	2	1
<p>コメント: 学校の基本情報、実績等に関しては公正かつ誠実に行われている。留学生受入れに関しても専修学校各種学校連合会主催の研修会に参加し、正しい募集活動を行った。入学選考については、募集要項に記載した日程と入試方法により適正かつ公正に基準により選考を行った。出願者全員に面接を実施し本校の教育内容の理解を確認した。学納金については他校の学納金も参考にし、学科の特性、地域性に合わせて設定した。入学辞退者に対する学納金返還についても募集要項に詳細を記載し、コンプライアンスを尊重した対応を行っている。</p> <p>今後の改善策: 入学後の退学者がいることから本校教育内容、学納金について更なる理解が求められる。</p>				

<b>基準8 財務</b>		評価			
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	④	3	2	1
2	予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	④	3	2	1
3	財務について会計監査が適正に行われているか。	④	3	2	1
4	財務情報公開の体制整備はできているか。	④	3	2	1
<p>コメント: 学校運営に関わる予算については、評議員会の諮問及び報告を経て、理事会の承認を得て決定している。18歳人口の減少に伴い、専門学校への進学減少の中、財務は固定費の削減、経費節約に努めるとともに教育の質を担保し満足度の高い学校づくりを目指す。</p> <p>今後の改善策: 安定した収入基盤確保のために、学生募集、退学防止、留学生の受入れ強化を行います。</p>					
<b>基準9 法令等の遵守</b>		評価			
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	④	3	2	1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	③	2	1
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。	④	3	2	1
4	自己評価結果を公開しているか。	④	3	2	1
<p>コメント: 本学園では法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。マイナンバーについては管理責任者を定め、適正な取り扱いを行っています。入学案内、HP等に掲載する在校生の個人情報の取扱いについては、掲載の趣旨を説明し承諾書を作成して適正な対応を行っている。</p> <p>今後の改善策: 自己評価に加え学校関係者評価委員会を設定する。</p>					
<b>基準10 社会貢献・地域貢献</b>		評価			
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか。	4	③	2	1
2	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか。	④	3	2	1
<p>コメント: 今年度、社会貢献・地域貢献に関しての活動を実施出来なかった。</p> <p>今後の改善策: 地域社会との関係性を深め、具体的な行動を行う。</p>					

## 4 本年度の重点目標達成についての自己評価

2018年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1. 入学定員確保</p> <p>① 学校訪問・ガイダンス・学校説明会を強化する</p> <p>② 認知度向上のため Web・SNS・紙媒体等による発信を強化する</p> <p>2. 学生満足度 100%</p> <p>① 半期ごとに満足度アンケートを実施する</p> <p>② 3ヶ月に1回以上の面談を実施する</p> <p>③ 職員会議にて学生状況の共有を行い、欠席者は適宜、面談する</p> <p>3. 資格取得率 100%</p> <p>① カリキュラムに資格対策を取り入れる</p> <p>② 進路指導の一環として資格取得への意識づけを十分に行う</p> <p>4. 進路決定率（卒業時）100%</p> <p>① 就職先を開拓する</p> <p>② 一年次から、自己分析や業界研究を促し、進路を具体的に考えられるようにする</p> <p>5. 教育力・指導力の向上</p> <p>① 指導に有効な資格の取得や内外の研修などを通じて、積極的に研鑽に努める</p>	<p>1. 入学定員確保</p> <p>2019年度 入学者 52名（日本人 2名、留学生 50名）</p> <p>2. 学生満足度 100%</p> <p>①学生満足度 81%（2018年10月実施アンケート）</p> <p>②年間を通じて、学生一人につき概ね4回程度の面談を実施した。</p> <p>③連続欠席者については、個別面談や家庭訪問等を含めて対応に努めた。</p> <p>3. 資格取得率 100%</p> <p>●資格名-合格率(合格者数/受験者数)</p> <p>●ビジネス能力検定 2級-100% (1名/1名)</p> <p>●日本語能力試験 N1-25% (1名/4名)</p> <p>●日本語能力試験 N2-31.5% (名/57名)</p> <p>4. 進路決定率（卒業時）100%</p> <p>就職フェアや講座・研究会の参加等を通じて、数十社とのコンタクトが取れた。一年次について進路指導に関してまとまった時間を割くことはできなかった。</p> <p>5. 教育力・指導力の向上</p> <p>専修学校教員教職課程の参加・修了、学生カウンセリング研修会等への参加など、向上に努めた。</p>	<p>1. 入学定員確保</p> <p>入学者国籍に偏りがあり、日本人学生への学校周知・訴求に努める必要がある。</p> <p>2. 学生満足度 100%</p> <p>カリキュラム内容の拡充、教員の指導力向上、就職サポート体制の強化、学生支援体制の整備などを通じて、向上を図る必要がある。</p> <p>3. 資格取得率 100%</p> <p>留学生の目標資格としていた日本語能力試験については、一般合格率並みであった。カリキュラムや指導体制のブラッシュアップが必要である。</p> <p>4. 進路決定率（卒業時）100%</p> <p>進路指導について、十分な体制が取れておらず、組織的な進路指導ができていない。体制強化が必要である。</p> <p>5. 教育力・指導力の向上</p> <p>授業日数・時間数から学外の研修・勉強会への参加が限定されており、能力向上は教員各自の研鑽が主となっている。</p>